

ご意見カード

構成員 中島 滋

1. 東京外郭環状道路の計画のたたき台。従来の高架道路から地下構造への変更の説明で6頁には 地上部の利用について 現状の市街地を維持することができます という選択肢がイラストとあわせて明示され 多くの住民に期待させた。
外環ジャーナル（平成13年4月）元計画の高架構造を地下構造に変更することで当初 懸念された地域分断等の課題は大部分が解決できると考えられます。地上部の道路建設は無いと 公表した。
東京都都市計画審議会（2007年4月）で大深度地下構造を利用した計画に都市計画変更された時 周辺環境への配慮、移転への影響を極力小さくするため 地下方式とすることとした と東京都自身が説明している。
上記の説明を市民感覚で合理的に受け止めれば 外環道本線とほぼ同じ幅員の外環ノ2も計画廃止された と理解される。
2. 古川さんが提出した都市計画提案は 現状の市街地を維持することができます という 計画のたたき台の選択肢に該当するものでありながら 不適格とした。その理由は外環ノ2は 東京都において一般延焼遮断帯に位置付けられていて この都市計画区域内の道路の最低幅員を11mとしている。これらの要件に対して古川さんの道路幅員は7.4m以下であるため 不適格とした。古川さんの都市計画提案は 外環ノ2の施行を拒絶して 現状の市街地を維持することができます という選択肢の一つを選んだもの。東京都の不適格理由は 都市計画提案地区で外環ノ2の都市計画を実施した場合の不都合、不整合を指摘したものである。
この理由は 前記1項に著しく反するもの、正常な社会人としての判断能力を欠く 東京都の職員の知的水準の著しい低下の証明書となる。
3. 都市計画提案の受理を3年間も遅らせて 都は ただ 今回のこの都市計画提案というのはこの話し合いとはもう別に 法の手続に乗っている話ですので この300mだけ切るってという提案については ちょっとなかなか難しいと。（議事録P36中段）都の不誠実対応を表示する典型的な発言である。都が住民との信頼感を望むなら検討のプロセスで 今までの公的な資料、発言に責任を持ち、矛盾した発言、決定、決議をしないと表明すべきである。
4. 都市計画提案に対する東京都の判断、この誤った判断を都議会の都市整備委員会で公表して手続を進めた という事態に対して都は 具体的にどのような対策を講じるのか 明らかにせよ。
5. 上記の質問に対して 司会者が 中島さん ちょっとそのぐらいにしてください。他に ご意見、ご質問等ありませんか とのみ消しを図った。
6. 平成27年5月15日 東京都市計画審議会で上記1, 2項の質疑に対して 都の担当者は最後まで回答を避けた。これは不信感を増大させ 円滑な工事を阻害させる行為である。杉並区の話し合いの会に於いては 都は従来の傲慢な態度を止め 真摯に回答して合意形成に努力すべきである。

平成27年6月10日